

令和元年度 FD 推進ワークショップに参加して

豊田工業大学

吉村真美

1) ワークショップ参加前に考えていたこと

ワークショップに参加する前は他分野の人が多く、授業を行う学生の属性やレベルも異なるので、体育分野の授業に役立つ知識を得ることができるのか疑問でした。また、今まで大学生を対象とした講義形式の授業を行ったことがなく、15分間という限られた短い時間内にパワーポイントを使用せずに伝えたいことを伝えることができるのか不安でした。

2) ワークショップ期間中の気づきやプログラムの感想

ワークショップに参加して、他分野の先生方の授業を学生の立場で受けてみることによって、各先生方が様々な手法を用いて学生の知的興奮が高まるような授業を展開していることに気づきました。それぞれの授業では、想定する学生のレベルや人数は異なっていましたが、大人数や少人数ならではの特性を活かした授業の行い方や進め方について学ぶことができました。さらに、授業について議論するだけでなく、大学組織での立ち位置や教員としての悩みについても共有することができました。

プログラムは話し合う機会が多く設けられていたので、時間の許す限り様々な大学事情についても議論することができました。さらに、2日目のふりかえりでは、新たなグループで議論することによって、他グループで出た問題や解決策についても学ぶことができました。このように1日目のグループで議論した内容をまた異なる分野の人に伝えることによって、改めてフィードバックの大切さに気づきました。

3) ワークショップ参加後の問題意識の変化や今後取り組んでみたいことなど

分野は異なっても、学生に授業を行うという点ではどの分野でも同じであるので、他分野の教員と話し合う機会は有意義であるものだと学びました。

講義形式の授業では、学生参加型の授業を取り入れることによって学生が眠たくなりにくくする、または授業内容を印象に残りやすくするという効果があることを改めて学んだので、今後授業に取り入れていきたいです。講義形式では教員が一方的に授業を行うスタイルが多い中で、板書を学生に行わせたり、行う授業の達成目標について声に出させたりという工夫は斬新だと思ったので、この点についても取り入れたいと思いました。講義はパワーポイントを使用することが当たり前だと認識していましたが、アナログで授業を行うことの良さを学んだので、適宜取り入れていきたいです。また、その際には、マーカーの色や字の大きさを意識することが重要なポイントであることを再認識しました。

令和元年度 FD 推進ワークショップ参加報告書

豊田工業大学

黒木経秀

1) ワークショップ参加前に考えていたこと

物理実験のテーマ探しをしていたので、何か示唆や経験を得られると有難いと考えていた。また、学生の自主学習を促す手段について、体験談やアイデアが欲しいと思っていた。模擬授業の準備不要とのことだったが、15分という短時間でもあり、内容を大まかにいくつか考えておいた。

2) ワークショップ期間中の気づきやプログラムの感想

文系と理系が混在して模擬授業を行ったため、普段ほとんど参加することのない文系科目の模擬授業を聞く機会に恵まれた。理系科目の余裕のなさに比べて、話自体を非常にゆっくりと興味深く聞くことができ、大変羨ましく感じた。理系科目は学生自身が手を動かし自ら問題を解く必要があることから、授業中にノートを取ることが必須になるが、文系科目では必要な箇所のみノートを取る、という形式が見られ、差異を痛感した。一方で文系科目ではグループワークで課題に取り組みせ、グループで意見を集約し解答する等の時間を設けていたが、理系科目では他の教員の方々も含め15分の間に内容説明で時間が尽きていた。私自身も演習の時間を設けようとしたが、時間がとても足りなかった。私自身の模擬授業自体は評価していただき有難かった。時間につれ早口になる傾向があることを自覚しているため、その点を指摘されると予想していたが、むしろ私のペースで説明を加えたことで分かりやすく感じた、との好意的な意見を文系教員の方から頂いた。意外であったが、恐らく15分しかなかったからだと思われる。実際の授業ではさらにスピードアップしていくため、学生にとっては速いと感じる授業になりがちであることを再実感した。

プログラムの感想としては、普段触れることのない全く異なる授業やその形式に触れるという貴重な体験をすることができ、大変有意義である。一方で、やはり文系科目と理系科目で形式、内容に隔たりが大きく、実践的にするためには最低でも文系理系分けた方がよいように思う。また、限られた時間のため仕方がないが、普段の授業ではなく模擬授業のための模擬授業になりがちであり、その意味では非現実的である。一方で、普段はできていないが、試してみたい授業方法をこの機会に実践して他の教員の方々に意見を述べてもらう、という場合には非常に有益になると思う。しかしそれでも15分では限界がある。また、こういったワークショップではどうしても「どう教えるか」のハウツーの討議になりがちであるが、本来重要なのは「何を教えるか」であると考えている。

3) ワークショップ参加後の問題意識の変化や今後取り組んでみたいこと

私の担当科目は内容が多く、なかなか時間が取れないが、グループワークの時間はできれば設けたい。学生の集中力、興味喚起、記憶定着に非常に効果がある。その際のテーマ設定が重要である。できれば答えのない課題や、答えがあっても多方面からのアプローチが可能な課題が良い。こういった時間こそ学生の思考力、コミュニケーション力が一番鍛えられると思うが、そのような時間的余裕がないのは大変残念である。